

ちゅうけいだ

昇または減速を行うために使用する

5 重信回線を構成するために使用する

6 4線式回路と2線式回路との結合用に使用する。  
その使用回路図を上記の区別によって示すと図-1~4のとおりである。以上のように中継線輪は非常にたくさんの用途があり、それぞれの用途に使われる変成器の種類ははなはだ多い。現在使用されているものには音声電流に使用するV形中継線輪と、搬送電流に使用するC形中継線輪とがあるが、またこれらの中で使用する回路インピーダンスによって、種々の形があり、中継線輪の一般的名称には次のような記号が付いている。

V形, VR形, VM形, VRM形, VS形, VRS形  
CV形, CVS形  
この記号はつぎの内容を意味している。

V…音声周波用 (voice)

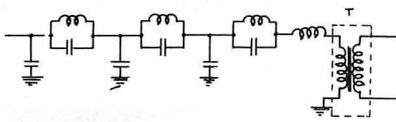
R…16~信号用 (ring)

M…聴話用 (monitor)

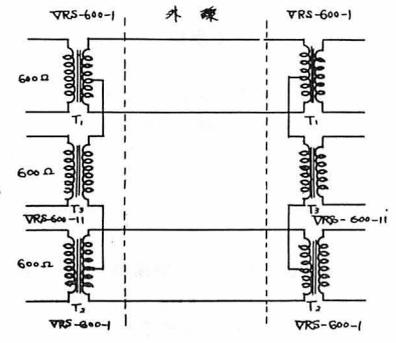
S…1次2次共平衡巻線

なおこの内容の記号にさらにインピーダンスを表示する数値をつけて呼称している。たとえばVRS 1600-11というように、最初の数字が2次側(4-3=8-7)巻線の整合インピーダンスを示し、そのつぎ

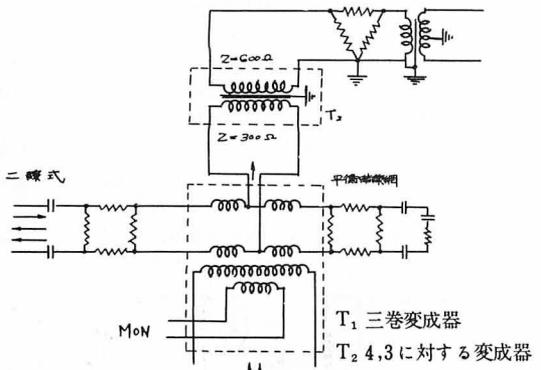
2. 3 の 変 成 器



3. 5 の 変 成 器



4. 1, 3, 4, 6 の 変 成 器

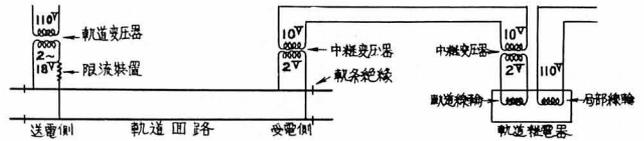


の数字が1次側(2-1)-(6-5)巻線のインピーダンスを示している。(鈴木 潔)

ちゅうけいだい 中継台 (英)trunk board 共電式交換機の一方式で、取客回線数が多く、通話度数の頻繁な交換所に設ける。このような交換所で加入者線と中継線を同一の台に収容することは、電話掛の取扱いが繁雑となり不適當であるから、甲

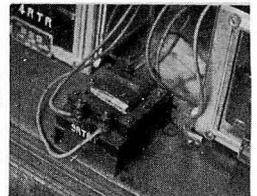
種・乙種共電式交換機では、加入者台と中継台とに収容回線種別をわけ、中継台の応答回線は中継線のみ収容している。さらに大容量の交換所では一般中継台と、記録中継台にわけ使用している所もある。なお相手交換所が自動式交換機である場合、中継台電話掛がそのつどダイヤルを回すことが不適當な箇所では、とくに対自動式交換所中継線のみを収容した台を設けている。これを対自動中継台という。またこの場合自動式交換所内に中継台を設け、この台で中継線および自動式加入者線の取扱いをしている所もある。この台を半自動中継台とよび、国鉄では一般に無ひも式が使用されている。(相原 茂)

ちゅうけいへんあつき 中継変圧器 (英) repeating transformer 軌道回路の着電側と軌道継電器の設備箇所が遠距離で

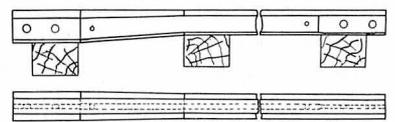


あるときは、途中の導線抵抗のため電圧が低下し継電器が動作しない。このような場合には2個の中継変圧器を使用し、軌道回路の受電端において電圧を上昇し、接続導線の終端において、ふたたび電圧を降下させ、軌道継電器を動作させるものである。(西沢 毅)

中 継 変 圧 器



ちゅうけいレール 中継レール (英)transition rail 異種レールの接合部に中継のため用いるレール。すなわちこのレールの両端がそれぞれ



れ接合するレールの断面に合うように作られている。30kgと37kg、37kgと50kg、50kgと30kgなどがある。大きい方のレールを用いその一端を鍛造で小さい断面に仕上げる。両種のレールを溶接接合して、溶接部をなめらかに仕上げることもある。いずれも長さは通常5mくらい。このレールのかわりに異形継目板で接合することもあるが、線路保守上からは中継レールを用いるのがよい。(沢田謙二)

ちゅうごくのてつどう 中国の鉄道

1 起 源

中国にはじめて鉄道の敷設が提議されたのは1864年で、上海在住の英国商社が、上海、漢口、広州の3大開港場を起点とするつぎの4大幹線の敷設を清朝に建言したことにはじまる。

上海・漢口・四川・雲南・印度

上海・鎮江・天津・北京

漢口・広州

上海・杭州・寧波・福州・広州・雲南

この提案は清朝政府によって拒否されたが、英国はその後長くこれらの線にそう權益の獲得に腐心した。

翌1865年英国商社は鉄道に対する中国朝野の理解を深めるため北京宣武門外に鉄道を敷設したが、清軍の命令により撤去させられてしまった。また1874年上海の英商怡和洋行(Jardin Matheson)が許可を得て上海の閘北から呉淞まで2'5"軌間の